

## 第7回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時 平成 30 年 3 月 23 日(金) 15:00～17:15  
場 所 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」 501 会議室  
出席者 東京大学大学院 佐藤教授  
名古屋大学大学院 水谷教授  
静岡大学 原田准教授  
国土技術政策総合研究所 加藤海岸研究室長  
静岡県交通基盤部 長縄河川砂防局長  
中部地方整備局河川部 石川河川調査官  
中部地方整備局静岡河川事務所 稲葉事務所長

### < 議事 >

#### ○T.P.+8.2m 区間における構造検討結果について

- ・背後用地に制約のない一般区間（裏法勾配 1:2.0）については、基本構造とすることに問題は無いが、区間により裏法勾配が異なる部分については、弱部になる可能性がある。
- ・背後用地に制約のある制約区間（裏法勾配 1:1.5）については、矢板構造を基本とするが、ライフサイクルコストに課題があることが確認された。また、裏法勾配 1:1.5 より急勾配な区間については、擁壁構造とするが、転落等に対する安全対策が必要であることが確認された。
- ・これらを踏まえ、次年度に擁壁構造の背後に盛土を行った形状で模型実験を行い、その結果を踏まえ、T.P.+8.2m 区間の粘り強い海岸堤防の構造を決定していくことが確認された。
- ・擁壁構造とする場合には、津波が越流の際、法肩に負圧が作用することや実験においてナップが発生していたことを踏まえ、次年度の模型実験の構造や、実際の構造設計への際には留意されたい。
- ・構造の検討に際しては、背後地の被害軽減において、越流直後の運動量の影響が大きいといった観点も考慮されたい。

#### ○漂砂管理計画のモニタリング状況等について

- ・計算初期断面にずれが生じている部分があるため、引き続き、モデルの再現性を向上させるための検討を行うこと。
- ・大井川流砂系総合土砂管理検討を踏まえた海岸領域における将来予測について、引き続き、連携を図り検討を進めていくこと。

#### ○台風 21 号による越波等の発生状況等について

- ・No.6～No.9 付近については実際には越波が確認されているが、検証結果では越波するような波高となっていないため、長い周期や波向、海底地形等の条件を見直すなど、引き続き、検証し

ていくことが確認された。

○今後の予定

- ・ 来年度の 8 月頃に大井川流砂系総合土砂の検討において大井川から流出土砂量の将来予測が示される予定であり、それを踏まえ、10 月頃に海岸領域における将来予測、土砂管理指標（案）、土砂管理堆砂（案）の審議を予定する。
- ・ また、年度末に大井川流砂系土砂管理計画 第一版（案）が提示される予定であるため、3 月頃に海岸領域の記載内容の審議並びに漂砂管理計画のフォローアップ（報告）を予定する。